

2022年2月11日

各 位

会 社 名 株式会社フレンドリー
代 表 者 名 代表取締役社長 國吉 康信
(コード番号 8209 東証二部)
問合せ先責任者 取締役営業本部長 田之頭 悟
(TEL 072-874-2747)

業績予想の修正及び営業外収益、特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2021年5月14日に公表した業績予想の修正及び2022年3月期第3四半期決算において営業外収益及び特別損失の計上いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期 通期個別業績予想数値の修正
(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 2,021	百万円 4	百万円 △6	百万円 △21	円 銭 △7.69
今回修正予想(B)	1,759	△273	△107	△145	△53.96
増減額(B-A)	△262	△277	△101	△124	
増減率(%)	△12.9	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	1,894	△643	△458	△252	△91.30

2. 修正の理由

売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大により全国的に緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置が適用され時短営業の実施など厳しい状況が続いた結果、1,759百万円と前回発表予想を下回る見込みであります。

営業利益につきましては、売上高の減少に伴う売上総利益の減少に加え、2021年12月13日発表の「第三者割当によるB種優先株式の発行（現物出資（デッド・エクイティ・スワップ））及び定款の一部変更並びに資本金、資本準備金の額の減少等に関するお知らせ」に記載のとおり、株式発行に係る諸費用の増加により、△273百万円と前回発表予想を下回る見込みであります。

経常利益につきましては、第3四半期までに計画に見込んでいなかった雇用調整助成金等34百万円、時短要請協力金127百万円の計162百万円をそれぞれ営業外収益に助成金収入として計上したものの、営業利益のマイナスを吸収することができず、△107百万円と前回発表予想を下回る見込みであります。

当期純利益につきましては、計画に見込んでいなかった固定資産売却益13百万円を第4四半期に計上する予定と計画に見込んでいなかった固定資産の減損損失を第3四半期までに36百万円計上したことにより、△145百万円と前回発表予想を下回る見込みであります。

(注) 本資料に記載されている業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

3. 営業外収益の発生及びその内容

当第3四半期会計期間におきまして、新型コロナウイルス感染症にかかる雇用調整助成金等6百万円、時短要請協力金12百万円をそれぞれ営業外収益に助成金収入として計上いたしました。

4. 特別損失の発生及びその内容

当第3四半期会計期間におきまして、固定資産の減損損失18百万円を特別損失に計上いたしました。

5. 業績に与える影響

上記の営業外収益、特別損失は本日公表の「2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」及び業績予想の修正にそれぞれ反映しております。

以上